大阪府津波浸水想定（津波浸水想定図）

図面名（図面番号）　10

縮尺　1:25,000

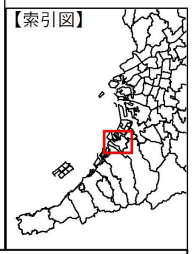
岸和田市、泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町

：防潮堤等がない場合に想定される津波到達範囲

浸水深（m）

- 20m以上
- 10m以上 20m未満
- 5m以上 10m未満
- 3m以上 5m未満
- 1m以上 3m未満
- 0.5m以上 1m未満
- 0.3m以上 0.5m未満
- 0.3m未満

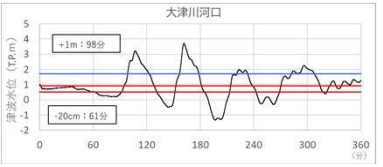
【索引図】

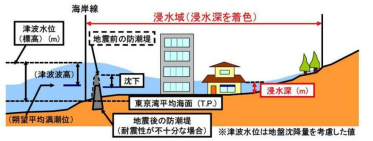


［津波シミュレーション］
対象地震　　：南海トラフ巨大地震
堤防取り扱い　：越流時に破壊（堤防なしとする）
構造物条件組み合わせ（2条件の重ね合わせ）

	防潮堤等	水門	陸閘
条件1	地震時沈下量を考慮	開放	
条件2	地震時沈下しない	開放	閉鎖

【留意事項】
○「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するものです。市町村のハザードマップ作成や津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
○津波浸水想定は、大阪府沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、南海トラフ巨大地震モデルおよび大阪湾断層帯を対象に検討を行いました。
　南海トラフ巨大地震を波源とする津波については、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」が公表した11のケースから、大阪府域に最も大きな影響を与えると考えられる3，4，5，10の4つのケースを選定しました。これら4ケースごとに、防潮堤等の沈下を考慮し、防潮施設の開閉状況に応じた2つのシミュレーション結果を重ね合わせ、悪条件となる場合に想定される浸水域（浸水の区域）と浸水深（水深）を表したものです。したがって、必ずしも同時に発生するものではありません。また大阪湾断層帯については、想定される津波断層モデルとして河田ほか（2005）の8ケース、内閣府（2006）の1ケースから大阪府域に最も大きな影響を与えると考えられる、河田ほか（2005）のケース1および内閣府（2006）の2つのモデルを選定し、津波浸水想定を行いました。なお、大阪湾断層帯により、南海トラフ巨大地震より浸水面積が拡大するエリアは関西空港のみとなりました。
　これら南海トラフ巨大地震モデルおよび大阪湾断層帯のシミュレーション結果を重ね合わせ、悪条件となる場合に想定される浸水域（浸水の区域）と浸水深（水深）を表しています。
○津波浸水想定の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害の発生範囲を決定するものではありません。また、一定の条件を設定し計算した結果のため、着色されていない区域が必ずしも安全というわけではありません。
○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が予想される津波から想定したものであり、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性が無いというものではありません。このため、浸水域が拡大する可能性を矢印で示しています。
○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正する可能性があります。
※その他の留意事項については、解説を参照して下さい。





この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 7JHs 324）